

No41 きのこ王国 0 1

義高 互

鮭川中学で担当した特支学級は複式でした。最上地域の中でもこの鮭川村や前に勤務した舟形町は学校に協力的な自治体でした。中には協力体制の確立が困難な学校や自治体もありましたので助かりました。自治体が用意する指導員の先生方も多く様々なことが出来ました。新聞などからアニメ・アプリの制作活動を知っている方から要望があり鮭川中でも制作活動を模索する事にしました。

生徒の個性は当然違います。前の生徒達と同じ制作形態は出来ません。制作能力についても特別な何かがあったわけではありませんが、様々な実態把握から制作形態を模索していきました。描画能力を何かの形で補足しつつ、地域や学校と連携して活動する形態を模索していきました。その結論が「その村が誇れる物を学習題材にして残す」ことでした。

その一つが特産品である「きのこ」です。

そして鮭川村でまとめてCDにもしている「民話」です。

特支学級の実態把握をすると共に、学校の社会科教員としても生徒たちの実態把握を進め、地域として、学校全体として、学級として何が出来るか探りました。そして地域学級と連携してアニメ・アプリを制作し、学校として学年全員でその一部を演劇にして表現する。ということに至りました。この学校全体との連携、地域との連携してのアプリ、アニメ制作、演劇表現活動は後で提示できればと思います。

鮭川中学校特支学級

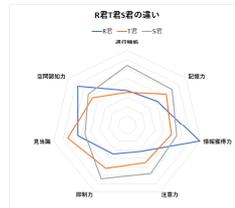
舟形町や戸沢村同様 協力体制がある

生徒の実態把握



何が得意で何ができるのか

生徒の特性を実態把握しながら制作活動



制作活動のテーマを模索する



村の誇れるものを
学習題材として残す



「きのこ」「民話」

